

沖縄の農林漁業者と中小企業のチャレンジ

新たな利用法によるサトウキビの 高付加価値化事業

ファイバーセル

法認定業者（中小企業）

（株）バガス（商品企画・製造・販売）

法認定業者（農林漁業者）

農業生産法人サン・ムー東（サトウキビ生産）

事業概要

製糖原料に特化しているサトウキビの利用法を見直し、多用途化と食の安心・安全の確保に取り組み。農業生産法人サン・ムー東と連携し、人や環境への影響を最小限に抑えた生産方式を確立し、より付加価値の高いサトウキビ生産と経営改善を目指している。



株式会社 バガス
代表取締役 大濱 用太郎さん

生産者インタビュ

今回の連携の詳細を
お聞かせ下さい。

弊社は、バガス（サトウキビ搾汁後の残渣）の高い栄養成分に着目し商品開発に取り組んできました。食の安全と食料自給率の向上が問われている中、知人よりサトウキビの無農薬栽培に取り組んでいる農業生産法人サン・ムー東さんを紹介いただきました。生産者と一体となることで付加価値の高い製品を提供することが出来ると考えたところからこの事業が始まりました。

どのような商品の
研究開発でしょうか？

バガスを弊社独自の技術により、微粒子状の粉末食物繊維製品にしました。ファイバーセルは食物繊維を豊富に含み、他にも鉄分、カルシウムなどのミネラル分を含んだ商品です。減農薬のサトウキビを使用することで、より安心・安全な食品になりました。

ファイバーセルの可能性を
お聞かせ下さい。

このファイバーセルは、あらゆる分野の加工食品に原材料としての利用が可能です。

食物繊維分を豊富に含み吸水率の高い弊社商品を、増量剤や結着剤として使っていたことで、機能性を付加することが出来るばかりでなく、主原料のコスト削減が見込めます。

現在、菓子や加工肉分野、飼料やペットフード分野でも付加価値の高い原材料として期待を寄せて頂いております。粉末粒子の調整をすることで、食品分野だけでなく、医薬品や化粧品分野にも広がる可能性を持っています。

ファイバーセルがサトウキビの
未来を示しているのですか？

この事業の構想の一つに、無農薬サトウキビ栽培の確立があります。現在は減農薬栽培で進めていますが、将来的には完全無農薬栽培を目指しています。既に、サン・ムー東さんでは、有機肥料や植物を活用した病害虫の忌避剤の研究をはじめており、環境

に配慮した農業に取り組んでおられます。

サトウキビへの思い。

サトウキビは農作物の中でも、単価が非常に安いうえ利用法が限られていましたがこの事業に取り組み中でわかったことは、サトウキビは予想以上に大きな可能性を秘めているということです。沖縄の風物詩の一つでもある、サトウキビ畑を残すことは地球環境の保全にも繋がります。サトウキビに新たな付加価値をつけることによって、サトウキビ農家が活気付くことを望んでいます。

沖縄を愛する心が生んだファイバーセル。環境を考え、沖縄の農業を考え、未来に



ファイバーセル

希望を持てる商品としての活躍が期待されている。



株式会社 バガス

〒900-0032 沖縄県那覇市松山1-21-8 サンハイツ松山1-C
TEL 098-861-7524 FAX 098-861-6687
http://www.bagasse.jp